

目次

29 巻頭言 少年動物誌の映画化

西垣 吉晴

30 一時代の終わり

伊谷 原一

32 連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第19回

河合雅雄先生に学んだこと…山極 壽一

34 連載「今日もOSARU日和」第9回

河合雅雄先生をしのんで…竹下 景子

36 連載「生態学者が往く」第15回

兵庫・丹波篠山の旅…湯本 貴和

38 連載「野生動物を遺伝子から見る」第10回

遺伝情報による野生動物の保全…村山 美穂

40 連載「野生動物のおなかの中の秘密 パート2」第4回

ゴリラの腸内細菌のふしぎ2…土田 さやか

42 連載「大型類人猿探訪」第22回

霊長類学がつなぐ人間関係…林 美里

44 連載「ウマ学ことはじめ」第22回

アルガ山のウマたちの「再生」…レナータ メンドンサ

46 連載「自然と芸術」第19回

雑木林と芸術…齋藤 亜矢

48 連載「動物園・水族館だより」第13回

座る？座らない？キリンの休息行動…齋藤 美保

50 連載「環境教育実践」第21回

河合雅雄先生とゲラダヒヒ…赤見 理恵

52 河合雅雄先生の思い出

水野 礼子

54 世界の霊長類 第2回

ヒガシゴリラ…綿貫 宏史朗

55 収蔵資料めぐり 第2回

eb-1885 ヒヒ三猿像…新宅 勇太

56 イベントのご案内・ご寄附のお願い

■表紙 P50「河合雅雄先生とゲラダヒヒ」より
撮影：赤見 理恵(公益財団法人日本モンキーセンター)

巻頭言 少年動物誌の映画化

西垣 吉春（映画監督）

1997年の6月以来いくどとなく犬山市山寺の河合先生のご自宅を訪ねた。映画の進捗状況の報告と、原作『少年動物誌』を読むだけでは推察できない河合イズムをのぞくためである。学ぶなんて恐れ多くて言えない。のぞかせてもらうだけで精一杯だった。

「関西方面に行く時、新幹線のA席に乗るんだよ！そこから見える木曽三川（木曽・長良・揖斐）は、未だに自然が残っていて葦の陰や淀みの生き物を想像するとドキドキする！」と聞いていたので、私もまねてA席にたびたび陣取ってみるが、想像どころか今もって三川を同時観察できていない。

映画を製作している中で、タイトルを相談する機会があり『森の学校』を提案すると、『『森が学校』がええ！』との返事。「語呂が悪いので『森の学校』をお願いします」と説明し、一応の了解を得た。そしてタイトル文字も依頼した。出来上がった文字に驚いていると、その時先生はくすっと笑いながら「葉っぱで（押し花風に）書いたんだよ」と。

映画『森の学校』公開後、国際交流基金の支援事業で、12か国語の字幕を載せて海外で公開することとなった。ただ『森の学校』のタイトルにある「森」の概念は国により随分と違う。東南アジアやアマゾンの森は熱帯雨林であり、アフリカなどの砂漠地帯の森はサバンナやオアシスである。日本人の考える森ではない。そこで漢字圏以外の国々では「MASAO」の名で公開することになった。『『まさお』かア！（ニッと笑って）『まさお』は日本で一番多い名前だからね』と快諾いただいた。この時もやんちゃなマト少年の顔を垣間見た気がした。

2002年に生まれ故郷の丹波篠山^{たんば ささやま}に居を移されてからは、たびたびご自宅を訪ねる機会を得た。京都嵯峨^{さが もりか}の森嘉の豆腐1パックと油揚げ2枚を届けると「今日は揚げステーキを頂こう」と喜んでもらえるので、いつもこの手合いで伺っていた。

先生の名著を映画化するという向こう見ずな企画であったが、この企画のお陰で原作『少年動物誌』の本質に、そして河合先生ご夫妻の瑞々^{みずみず}しい人間愛に触れることが叶った。4、5年前のことだったか、ご自宅の庭の野菜と草木に包まれてコーヒーを頂いていたとき、奥さまが「河合の言ってきたことや思いがやっと解ってもらえる時代が来たんですかねえ」と私におっしゃった。『少年動物誌』は1976年5月30日に初版発行とあり今年で丸45年になる。時を経ても変わることのない普遍的な大切な思いが『少年動物誌』に込められているのだ。名誉公園長でもあるささやまの森公園の和室（茶室）には『森が学校』と先生直筆の軸が飾られている。そう森が学校である。「河合先生ご苦労様でした。有難うございました。お疲れ様。ほんまに有難うございました」映画の台詞で感謝申し上げます。（京都・あらし山）



西垣 吉春
にしがき よしはる

1947年兵庫県丹波篠山市に生まれる。1969年早稲田大学卒業。東映京都TVPに入所。1982年ドキュメントを初監督以来、テレビ映画「照姫七変化」「三匹が斬る！」「代表取締役刑事」「おらんだ左近秘剣帖」「殿様風来坊隠れ旅」「大江戸弁護人走る」の各作品を数話監督。五時間スペシャル番組「徳川家康」「伊達政宗」を師舛田利雄と共同監督。この間、88年度教育映画祭優秀作品賞受賞作「はばたけ明日への瞳」（共和教育映画社）をはじめ、「岐かれ道」「すてき坂」、99年度教育映像祭で文部大臣賞（最優秀作品賞）受賞作「お母ん、ぼく泣かへんで」（東映教育映像）など社会派映画も監督として多数手がける。今も全国公開中の映画「森の学校」（原作「少年動物誌」河合雅雄著）を企画・監督。この「森の学校」は文部科学省特別選定、厚生労働省推薦、環境省推薦、（社）青少年育成国民会議推薦、日本PTA全国協議会「特別推薦」の他、各都道府県単位で特選、推薦を受ける。現在(株)京都文化村代表。丹波篠山ふるさと大使。